

CASBEE_Sapporo2014v1.2
 フィノス 静修学園前

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.6
1 音環境						2.0	0.15	2.3	1.00	2.2
1.1 騒音						1.0	0.50	1.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能					AW+PWでT-2以上相当の建具を使用している。	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						1.0	0.35	5.0	1.00	4.1
2.1 室温制御						1.0	1.00	5.0	1.00	
1 室温						-	-	-	-	
2 外皮性能	A				日本住宅性能評定基準の断熱等性能等級4を満たしている。	1.0	1.00	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
3 光・視環境						2.4	0.25	3.8	1.00	3.5
3.1 星光利用						4.2	0.30	4.6	0.50	
1 星光率					開口部を大きくし、星光を確保している。	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					代表タイプが南・東の両面に窓がある。	-	-	5.0	0.30	
3 星光利用設備	A					3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	3.0	0.50	
1 星光制御	A					1.0	1.00	3.0	1.00	
2 眩り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					床・壁・天井にF☆☆☆☆の建材を使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 浮遊粒子状物質						-	-	-	-	
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					開口部を大きくして、開閉可能な窓を十分確保している。	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0
1 機能性						2.4	0.40	3.2	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性					各住戸に100Mbpsの光ファイバー回線を整備している。	-	-	4.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	1.00	-	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.30	2.0	0.40	
1.2 心理性・快適性						-	-	3.0	0.50	
1 広さ感・景観						1.0	1.00	1.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	0.30	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務						-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					日本住宅性能評定基準の劣化対策等級3を満たしている。	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	B					2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	B					3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	B					3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B					3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	B					2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						2.8	0.30	3.3	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり						-	-	3.6	0.50	
1 階高のゆとり					階高2900mm以上。	-	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ						-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性						2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性						2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	

CASBEE_Sapporo2014v1.2
 フィネス精修学園前

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	実施設計段階				重点評価項目					環境配慮設計の概要記入欄								
	重点評価項目				A:省エネルギー					B:省資源		C:緑化		D:雪処理				
	A	B	C	D	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体					
Q3 室外環境(敷地内)														-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出														2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮														4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮														2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上														2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上														2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性														-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー														-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制														5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用														3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化														4.2	0.50	-	-	4.2
BEI 非住宅 - 住宅(専有部) 0.99														4.2	1.00	-	-	4.2
集合住宅以外の評価(3a,3b)														-	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)														4.2	1.00	-	-	4.2
低炭素建築物新築等計画認定を取得している。														-	-	-	-	-
4 効率的運用														3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価														-	-	-	-	-
4.1 モニタリング														3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制														-	-	-	-	-
集合住宅の評価														3.0	1.00	-	-	3.0
4.1 モニタリング														3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制														3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル														-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護														3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水														4.0	0.40	-	-	-
節水型器具を使用している。														3.0	0.60	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用														3.0	0.70	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無														3.0	0.30	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無														3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減														2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減														2.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用														3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用														3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用														1.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材														2.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み														4.0	0.20	-	-	-
乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。														-	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避														3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用														3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避														4.0	0.70	-	-	-
1 消火剤														4.0	0.50	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)														4.0	0.50	-	-	-
3 冷媒														-	-	-	-	-
ハロン消火剤を一切使用していない。 ODP=0, GWP<10の断熱材を使用している。														-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境														-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮														3.9	0.33	-	-	3.9
LCCO2排出率が76%である。														3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮														3.0	0.25	-	-	-
2.1 大気汚染防止														3.0	0.50	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善														3.5	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制														3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減														3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制														4.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制														4.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制														4.0	0.25	-	-	-
十分な駐車スペースを確保している。 棟内ゴミステーションによる十分なスペースの確保。														3.3	0.33	-	-	3.3
3 周辺環境への配慮														3.0	0.40	-	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止														3.0	1.00	-	-	-
1 騒音														-	-	-	-	-
2 振動														-	-	-	-	-
3 悪臭														-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制														3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制														3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制														3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制														3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制														4.7	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策														5.0	0.70	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策														4.0	0.30	-	-	-
「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たしている。 バルコニーの設置によりグレアの抑制を行っている。														-	-	-	-	-